

守りたい私の島の海

三島村立三島片泊学園 七年

下戸さげど

良佑りょうすけ

「何だ、あれ。」

鹿児島港に向かうフェリーの甲板から私は見つけてしまった。船の前方から点々と流れてくる色とりどりのプラスチックをー。

そのとき、私は一枚の写真を思い出した。大きな海亀が浜に打ち上げられている写真。なんとその海亀のお腹の中には大量のプラスチックゴミが入っていたのだ。それを見たとき、私は怖いという思いと同時に、亀に謝りたいという気持ちになった。今もどこかで海に漂うプラスチックゴミは、多くの生き物の命を奪ってしまっているかもしれない。そう思うと、一心に胸が痛くなる。

私の住む黒島は、鹿児島県の薩南諸島北部に位置する人口約百九十人のとても小さな島だ。コンビニやガソリンスタンドなど、本土にはあって当たり前のお店がない島だが、この島には、誇れる豊かな自然がある。山の緑

は深く、海は青く澄んでいて、堤防からでも
たくさんの魚が泳いでいるのが見える。そんな
黒島が私は大好きだ。

しかし、この美しい自然ばかりの黒島にも
多くのプラスチックごみが打ち上げられてい
るのが現状だ。毎年私たちの学校では、海岸
清掃のボランティアを行うのだが、そのとき
に集まるごみは、日本をはじめとする世界各
地から流れてきたと思われる物が多い。そこ
で私は、海洋ごみについて深く考えたいと思
い、調べてみることにした。すると、海洋ご
みは世界中で年間約八百万トンも流れ出てい
ることや、海の生態系をくずし、ある種の生
き物を絶滅させてしまうおそれがあるという
ことが分かった。また、プラスチックごみの
中でも、五ミリ以下に劣化したものはマイク
ロプラスチックと言われ、食物連鎖の先にい
る私たち人間の体の中にも、魚介類とともに
取り込まれる危険性もあるということを知っ
た。ごみを飲み込み、死んでしまった海亀は、

将来の私たちの姿なのではないだろうか。

多くの恵みをもたらし、私たちの心をいやしてくれる海。しかし、このまま私たち人間が何もしなければ、海はその姿を変えてしまいかもしれない。では、今の私たちにできることとは何だろうか。まずは生活を見直し、ごみを減らすことだと私は考える。具体的にスリ―Rの徹底である。例えば、リデュースではマイバッグやマイボトルを使い、できるだけプラスチック製品を使わないようにするということ。リユースでは詰め替え用ボトルを使い、ゴミを減らす工夫をする。リサイクルでは、日頃からの家庭ごみの分別で資源を再利用するということである。私の島でもプラスチックだけでなく、資源ごみ、空き缶・空き瓶などはきちんと分別している。そして何より大切なのは「ごみを出さない」「落ちているごみは積極的に拾う」という意識をもち、それを行動に移すことだと思う。

国際社会共通の目標でもあるSDGsでも

「海の豊かさを守ろう」という目標が掲げられて
いるが、まだまだ深刻な課題があることは
否めない。驚くことに現在では、一九七〇
年当時の四九%の量しか海洋生物がいない。
また、今のままだと三十年後には、海洋プラ
スチックの量が、魚の量を上回ると言う。減
少する海洋生物に対し、増加する海洋プラ
スチックごみ。これらの課題を解決するため
は、今を生きる私たちが責任を持って、海
の豊かさを守るための活動に取り組んでい
かなければならないのだと強く思う。

海の水は水蒸気となって雲になる。そして
雨となり、大地を流れ、川となってまた海に
戻る。命の源と言われる海。当たり前のこと
だが私たちは、水がないと生きていけない。
そのことを忘れてはいけなさと、美しい黒島
の海を見るたびに私は思う。私はこの島も、
海も好きだ。だからこの美しい景色を永遠
に守っていききたい。だからこそ、私は今、自
分にできることから一つずつ行動していく。